

授業科目名	【G】 刑法(総論)Ⅱ	区分 選択	開講年次	【G】2	単位数	【G】2		
科目区分	専門科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブタイトル	すべての犯罪に共通する成立要件(後半)				担当者	青木 陽介		
授業概要	【概要】	この講義では、「刑法(総論)Ⅰ」で学習したことを踏まえ、引き続き犯罪論(すべての犯罪に共通の成立要件)について解説する。「刑法(総論)Ⅱ」では、犯罪論の後半部分(責任、未遂、共犯、罪数)を取り扱う。						
	【到達目標】	この授業を履修して勉強を行った学生が、犯罪の一般的な成立要件についての基本的な知識を習得し、それを自らの言葉で説明できるようになること。また、それを活用して事例問題を解決することができるようになることを目標とする。						
履修条件	特になし。							
アクティブ ラーニングの 方法	【-】	事前学習型	【-】	反転授業	【-】	調査学習	【-】	フィールドワーク
	【-】	双方向アンケート	【-】	グループワーク	【-】	対話・議論型授業	【-】	ロールプレイ
	【-】	プレゼンテーション	【-】	模擬授業	【-】	PBL	【-】	その他
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	- (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	- (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	- (当てはまらない)						
他科目との 関連性	前期に「刑法(総論)Ⅰ」(青木担当)を履修していることを前提に講義を行う。 また、刑法全体についての理解を深めるため、「刑法(各論)Ⅰ・Ⅱ」を履修(事前履修・同時履修・将来の履修のいずれも可。また、担当者は問わない。)することを推奨する。							
教科書	西田典之[補訂:橋爪隆]『刑法総論(第3版)』(弘文堂、2019) (なお、授業開始前に、当日使用する資料を配布する。また、下記参考書①については、授業中に参照する予定である。)							
参考書	①: 山口厚=佐伯仁志=橋爪隆(編)『判例刑法総論(第8版)』(有斐閣、2023) ②: 橋爪隆『刑法総論の悩みどころ』(有斐閣、2020)							
評価方法	学習到達度確認試験(85%)および毎回の授業における小課題(15%)により評価する。							
フィードバック 方法	配布したレジュメ上の空欄箇所を埋める等の小課題を毎回出題する。課題はclassroomにて提出してもらい、それを添削した上で返却する。 また、学習到達度確認試験についても、模範解答を示す等の形でフィードバックを行う。							
評価基準	上記授業単元の内容につき、問題の所在や判例・学説の状況をよく理解し、適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」を与える。授業内容についての理解度や表現内容に何らかの不適切な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、授業内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。なお、試験を欠席した場合、評価不能のため「F」とする。							

授業 科目名	【G】 刑法（総論）Ⅱ	区 分	開講年次	【G】2	単位数	【G】2
		選 択				
授業回数	授業内容					
1	責任主義、故意、具体的事実の錯誤①(客体・方法の錯誤)					
	予習： 教科書の該当箇所(219頁以下)を読む。		復習： 講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)			
2	具体的事実の錯誤②(因果関係の錯誤)、抽象的事実の錯誤					
	予習： 教科書の該当箇所(240頁以下)を読む。		復習： 講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)			
3	違法性の錯誤、事実の錯誤と違法性の錯誤の区別					
	予習： 教科書の該当箇所(252頁以下)を読む。		復習： 講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)			
4	過失①(過失犯の構造、成立要件)					
	予習： 教科書の該当箇所(268頁以下)を読む。		復習： 講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)			
5	過失②(信頼の原則、管理・監督過失)					
	予習： 教科書の該当箇所(268頁以下)を読む。		復習： 講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)			
6	責任能力、原因において自由な行為					
	予習： 教科書の該当箇所(287頁以下)を読む。		復習： 講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)			
7	未遂犯①(実行の着手)					
	予習： 教科書の該当箇所(315頁以下)を読む。		復習： 講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)			
8	未遂犯②(不能犯、中止犯)					
	予習： 教科書の該当箇所(328頁以下)を読む。		復習： 講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)			
9	共犯の基礎理論(関与類型、処罰根拠、因果性の内容)					
	予習： 教科書の該当箇所(346頁以下、359頁以下)を読む。		復習： 講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)			
10	間接正犯					
	予習： 教科書の該当箇所(350頁以下)を読む。		復習： 講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)			
11	共謀共同正犯					
	予習： 教科書の該当箇所(371頁以下)を読む。		復習： 講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)			
12	共犯論の諸問題①(共犯と錯誤、不作為による共犯、必要的共犯、共犯と身分)					
	予習： 教科書の該当箇所(243頁以下、384頁以下、)を読む。		復習： 講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)			
13	共犯論の諸問題②(承継的共犯、共犯からの離脱)					
	予習： 教科書の該当箇所(391頁以下)を読む。		復習： 講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)			
14	罪数					
	予習： 教科書の該当箇所(446頁以下)を読む。		復習： 講義内容を整理・確認し、不明点を参考書等で調べる。(90分)			
15	学習到達度確認試験及びその解説、答案の書き方					
	予習： 配布資料・ノートの確認。		復習： 試験問題で間違えた箇所を、模範解答で確認する。(60分)			
その他	講義では適宜条文を参照するので、最新の六法(出版社は問わない)を必ず持参すること。 また、判例を確認するため、参考書①を度々参照する予定である。こちらも持参すること。 なお、私語等の授業を妨害する行為を行う学生に対して、退室を命じることがある。					